

目指す環境像について

1 前回案と主なご意見

案1	ECO未来都市 あまがさき
意図	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現行計画における環境像を据え置くもので、環境を「守るべきもの」から生活を豊かにするために「活かすもの」とし、市民一人ひとりのライフスタイルの変革や環境関連産業の活性化などを進め、市内のあらゆる場面で環境が生きづく持続可能なまちを目指すという想いが込められている。 ・ 本市の産業界5団体と尼崎市が表明した共同宣言の名称（ECO未来都市・尼崎）宣言～環境の生きづくまちは美しい～と整合が図られている。
主なご意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャッチフレーズとしてはわかりやすいが、抽象的な印象がある。
案2	豊かな環境を将来に継承するまち あまがさき
意図	<ul style="list-style-type: none"> ・ 将来世代が享受する環境の恵みに対して、現世代が責任をもち、豊かな環境として共有し、引き継いでいくイメージを示す。
主なご意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「豊かな環境」を将来に継承とあるが、環境については改善していくべきことも多く、現状を「豊かな環境」といえるか疑問である。
案3	環境と調和した持続可能なまち あまがさき
意図	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民生活・事業活動に由来する環境汚染・負荷を軽減するとともに、社会・経済システムを環境と調和したまちに替えていくイメージを示す。
主なご意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 尼崎市は企業や市民の数が多く、様々な調和が必要であり、案3で検討してはどうか。 ・ 市内で消費されるエネルギー・資源は市外から調達する必要があり、広域的な環境と調和が求められると考えられ、案3がよいと思う。 ・ 案3については<u>環境と何が調和するのか</u>について具体的な文言があってもよいと思う。 ・ 「<u>持続可能なまち</u>」はSDGsなどを意識したものだと思うが、「<u>社会</u>」など誰が聞いてもわかりやすい文言がよいのではないか。 ・ 案3を基本に検討すればよいと思うが、どのような「まち」とするかを示すのではなく、調和を目指すうえでの<u>行動・意識などを示す言葉や自分事として取り組めるような言葉</u>を検討してはどうか。 ・ 案3については<u>市民生活・事業活動を環境に優しいものにしていくことが大切であることがわかるようなもの</u>にしてもらいたい。

2 修正案

(1) 対応

対応	ご意見の概要	対応
1	・環境と何が調和するのか	・環境と調和させるものを「暮らし」としました(案1・案2)。
2	・自分事として取り組める言葉を加えられないか。	・「暮らし」を主体性・自発性のある表現として「暮らす」と表現することを検討します(案1)。
3	・「持続可能なまち」をわかりやすい表現としてはどうか	・No.1とNo.2のご意見を踏まえ、次の2案を検討します。 案1 環境と調和して暮らすまち 案2 環境と調和した暮らしができるまち
4	・市民生活・事業活動を環境に優しいものにしていくことがわかるものとしてはどうか	・「環境と調和した暮らし」を実現していくためには、環境に優しいモノ・サービスの需要・消費(主に市民生活)や供給・普及(主に事業活動)が前提になると考えられるため、環境像の説明で補うこととします。

(2) 目指す環境像

大量生産・大量消費・大量廃棄を前提とした現在の社会経済活動やライフスタイルは、緻密なバランスの上に成り立っている環境に負荷を与えており、その結果として気候変動や資源の枯渇、生物多様性の損失、汚染物質の排出など様々な環境問題を引き起こしています。

特に社会経済活動がグローバル化している現代においては、環境問題を地域だけの問題として捉えるのではなく、地球規模の問題として捉える必要があり、これまでの環境汚染・負荷を低減していくという視点からだけでなく、どのような資源・エネルギーをどのように消費していくのかといった視点からの取組も行っていかなければなりません。

これらに取り組んでいくためには、私たち一人ひとりの意識・行動を変えていくことが、社会・経済全体を成熟したものに変わっていくことにつながっているということを認識しつつ、環境と調和した暮らしの実現を目指していくことが必要であるため、本計画において目指す環境像を次のとおり定めます。

案1 環境と調和して暮らすまち あまがさき

【環境像のイメージ】

- ・市民が環境性能の高い住宅に住み、環境配慮行動をしながら暮らしていることなどだけでなく、「環境と調和して暮らす」ためには、市民のモノ・サービスの消費・需要も環境に配慮したものとなる必要があり、こういった消費・需要を通じて生産・供給を含めた社会・経済全体を環境配慮型のものとしていくことに貢献していくという意味も含まれます。

案2 環境と調和した暮らしができるまち あまがさき

【環境像のイメージ】

- ・「暮らしができる」としているのは、単に市民が環境と調和して暮らせるまちという意味だけでなく、環境と調和した暮らしをしたいという人の想いに応えられる雰囲気のあるまちを目指すという意味も含まれます。
- ・「環境と調和した暮らし」を実現するためには、市民のモノ・サービスの消費・需要も環境に配慮したものとなる必要があり、こういった消費・需要を通じて生産・供給を含めた社会・経済全体を環境配慮型のものとしていくことに貢献していくという意味も含まれます。